

平成 19 年度 グローバル COE プログラム
「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」
次世代研究イニシアティブ 成果報告書

1. 課題名／調査地／名前

アフリカ・バショウ科作物文化圏における資源利用と生業基盤の持続性に関する比較研究／エチオピア／丸尾 聡(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 非常勤研究員)

2. 研究目的

熱帯アフリカにおける集約的な農耕システムとして、ホーム・ガーデン型農耕を挙げることができる。とりわけ東アフリカ高地帯ではエンセーテ(*Ensete ventricosum*) やバナナ(*Musa spp.*)というバショウ科作物を基盤とするホーム・ガーデン型農耕が古くから営まれており、その高い人口支持力に関連して人口稠密な地域が形成されている。これら両作物の生業システムについては土地利用形態だけでなく、(1)常畑での混作と多品種栽培、(2)周辺耕地での穀物栽培および家畜飼養、(3)主食などとしての地域的な重要性の高さ、といった共通の特徴がみられ、農業生態学的な安定性や持続性の高さが指摘されている。その一方で、生業システムは近年の現金経済の浸透や人口圧の高まりなど社会経済的に大きな変容に影響を受けており、より動的にシステムを分析する視座が必要とされる。

本研究では、エンセーテやバナナを基幹作物としたホーム・ガーデンを地域の生業基盤と位置づけ、エチオピアおよびタンザニアのバショウ科作物文化圏の比較を試みるなかで、アフリカ農耕民社会が今日の社会的経済的な変容に対して生業基盤を形成、維持する機作を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の内容と成果

ここではエチオピアにおける予備調査(2008年2月)によって得られた情報をもとに、エンセーテの生産や販売の状況および、その近年の変化について簡単に報告する。調査はエチオピア西南部、南部諸民族州シダマ地方のアグレサラームでももに実施し、エンセーテの生産・販売に関する聞き取りおよび参与観察をおこなった。アグレサラームは標高 2000~2700m の高地帯に位置し、クシ系農耕民のシダマが住民の多数を占める人口約 8500 人(2005年)の町である。主たる生業はエンセーテやコーヒーを

中心とする農耕であり、ウシなどの家畜飼養と組み合わされている。

エンセーテはホーム・ガーデンで栽培される中心的な作物であり、社会的経済的に重要な役割を担っている。果実を食するバナナと異なり、エンセーテは偽茎や根茎に含まれるデンプンが食用とされる。通常年に 2 回、同じ生育ステージの個体がまとめて収穫され、そのデンプンを土中で発酵させる方法で調査地域では加工される。質の違いによりシダマ語で *bull*a、または *wassa* と呼ばれるその発酵デンプンは半年以上の高い貯蔵性を有しており、生産農民はある程度時期を選んで余剰分を販売することが可能である。

エンセーテの発酵デンプンは少なくとも 20 年前にはローカルなマーケットで売買されるようになっていたが、郡で最大の町であるアワサのマーケットでも近年になってこれを商う女性が増えてきたという。アゲレサラームではローカル・マーケットに卸す仲買人が主に活動しているが、一部の生産農民のもとへはアワサにトラックで出荷する仲買人も買い付けに訪れている。生産農民への聞き取りでは、少なくとも半数近い世帯は発酵デンプンを売った経験があり、さらにその半分ほどの世帯は積極的に収入源にしていると考えられる。過去 2 年間でその売値は 2 倍から 3 倍に上昇しており、世帯によっては必要に応じてエンセーテを売り、他の主食材料(テフという国内で重要な雑穀)を購入する事例が観察された。一方で、エンセーテはもっとも重要な食料であるという理由から、わずかな余剰分以外は販売しないという場合も年輩の世帯を中心にみられ、収入源としての役割に大きな世帯間差異が認められた。

このような地域の基幹作物の「ローカルな商品作物化」はタンザニア北西部のバナナ生産地域でもみられる現象であるが、その背景としていくつかの共通点が明らかとなった。ひとつは従来の農耕システムに関する問題であり、主食作物(エンセーテやバナナ)と換金作物(コーヒー)の双方において特定の種に依存してきた傾向があり、その点でホーム・ガーデン内部の多様性に長年大きな変化がみられなかったことである。第二に、近年の都市部の人口成長により食料需要そのものが増大していることである。さらにこれと関連して、これらの地域においてエンセーテやバナナが社会文化的にも重要な作物である点であり、その地域から移住したのちもこれらを嗜好する都市住民が「ローカルな商品作物化」を牽引する大きな役割を担っている。

4. 成果発表の具体的な予定

今回のエチオピアにおける実地調査は短期であったため、十分な情報を得るには至らなかった。さらなる調査および資料収集を加えたのち、タンザニア農村部との比較をまとめ、'African Study Monographs'に投稿する予定である。



写真1 エチオピア西南部・アグレサラームの景観とホーム・ガーデン



写真2 アグレサラームのローカル・マーケットで販売されるエンセーテ発酵デンプンの包み



写真3 エンセーテ発酵デンプンの小売商(エチオピア西南部・アワサの町のマーケット)